

花鳥風月—水の情景・月の風景

皇居三の丸尚蔵館（千代田1） 24.09.10～10.20

自然の中の美しい景物は、「花鳥風月」と呼ばれ、なかでも「水」は生命を作り上げる重要な要素である。また、「月」は太陽とともに季節や暦を表わす情報として、人々の生活に欠かすことのできないものであった。

本展では、季節によって表情を変える「水」と「月」の多彩な表現を、当館の収蔵品の絵画、書跡、工芸品を通して選りすぐりの名品を紹介している。

絵画や書跡では、河合玉堂の《雨後》や伝源俊頼の《安宅切本和漢朗詠集》など、春化秋冬のなかでの「雨、滝、月」をあらわした作品を取り上げ、工芸では水の名所を表した「濤川惣助」の《七宝墨画月夜深林図額》をはじめ、江戸時代から大正時代にかけての漆工や金工を展示している。

伊藤若冲《梅花皓月図（動植綵絵）》 国宝 18世紀 絹本着色



30幅に及ぶ花鳥図の代表作で、様々な植物、鳥、昆虫、魚介などの生き物の生命感をいかに瑞々しく描写するかにこだわった作品で観る者を魅了する。

群鶏図 池辺群虫図 老松白鳳図 紅葉り禽図

雪中鴛鴦図 向日葵雄鶏図 紫陽花双鶏図 蓮池遊魚図が描かれているが、梅花皓月図（ばいかこうけつず）の花弁の胡粉は、均一の調子で塗られるのではなく、もっと複雑な濃淡の変化をつけている。これは、月光を透かす梅花の姿を写そうという意識によるものとされる。

上村松園《雪月花（せつげっか）》 1937年 絹本着色



貞明皇居の御用命を受けて以降、完成まで20年以上を要した女流画家「松園」の全精神を注いだ力作である。

画題の「雪」は、『枕草子』、「月」は『源氏物語の宇治の姫君』、「花」は『伊勢物語の筒井筒』を描いている。

三幅を通して統一感があり、典雅な雰囲気を醸し出しているが、夫々の作品も完結した美しさがある。